

平成27年度農高・農大就農促進対策事業

事業主体名 鹿児島県立徳之島高等学校

### 1 目的

生徒は農業体験をする機会はあるものの、先進的な農家の取組を知る機会は少ない。その中で生産現場や流通過程の視察を行うことにより、将来の職業として農業をその一つととらえてもらう。

また、卒業後島を離れる生徒にとって徳之島の自然を見つめ直す機会をもつことにより、郷土愛をもって生まれ育った地域に誇りをもってもらおう。

### 2 実施状況

#### (1) 農家および農業関連事業所視察研修の実施

①島内の畜産（肉用牛）・マンゴー・サトウキビ・茶・向春草（シマアザミ）・野菜の水耕栽培などの生産現場を視察させていただき、島内での取組を知ることができ、農業に対する視野を広げられた。

②黒糖焼酎工場視察においては、本校で生産されたサトウキビを使った黒糖を使った焼酎が仕込みの途中であり、焼酎の醸造過程を職員より説明していただき、島の産業の一部を理解することができた。

#### (2) 環境省職員による講話の実施

天城町役場駐在の環境省職員（徳之島出身者）により徳之島に生息する動植物を写真や動画を通じて解説していただき、生徒は、日常生活ではほとんど目にするのでできない貴重な動植物に興味を持ち、改めて自らの生まれ育った環境を保護することで故郷を見つめなおす機会となった。



#### (3) 畜産農家実習およびインターンシップ

2年生が科目「畜産」において島内肉用牛農家の協力をいただき1学期に2日（2農家）、2学期に3日（5農家）実施した。徳之島の基幹産業の一つでもあり、生徒の興味関心も高く、農家からも高く評価していただき、来年度以降も実施していきたいと考えている。



### 3 今後の課題、取り組み

視察研修においては、生徒の移動も伴うため島内に研修先が限られるが、それらをうまくローテーションさせながら、常にいろいろな角度から地域の農業や産業現場に関わる機会を得られるようにしたい。

また、進路においても3年生は農業大学校へ12名中4名が希望したものの合格は肉用牛科1名と少なかったが、2年生は現時点で10名中6名が肉用牛科への進路を希望している。今後は、これらの生徒が農大に向けてより多く合格させるための取組を進めることで後継者育成及び確保に努めたい。